

2020年度

《学生による授業評価アンケート》結果報告書

相愛大学FD委員会

目次

1. まえがき	1
2. 結果の分析	
基礎・共通および資格関係	3
音楽学部	8
人文学部	15
人間発達学部	18
グループ平均一覧	25
3. 学生による授業評価アンケートの調査結果及び教員によるコメント	26
4. 資料	186

まえがき

2020 年度後期の授業評価アンケートの結果を、ご報告いたします。先生方には、講義時間内でのアンケート調査の実施、アンケート結果に対する意見および改善方法などを記したリフレクション・ペーパーを作成いただき、ありがとうございます。

本アンケートは 2015 年度前期から 2019 年度後期までは同じ質問項目で行っており、2020 年度後期から質問内容を若干変更して実施しています。類似した質問項目に関しては、授業に対する学生の評価を年ごとに比較することが可能です。

2020 年度は COVID-19 感染防止を鑑みて、対面授業、対面授業に代わる授業(オンライン型、オンデマンド型など)またはこれらを組み合わせた方法など、多様な方法で授業が実施されました。そのため、教員および学生の双方が多様な授業方法に対応しつつあった後期の開講科目について、原則として全教員を対象に本アンケートを実施しました。さらに、本年度は原則として Web のみでアンケートを実施したことから、例年のアンケートと比べてアンケートの回答率は授業によってばらつきが大きく、極端に回答数が少ない授業もある点をご了承ください。

本年度のアンケートの結果は、様々な制約のなかでの教員の授業に対する工夫や努力、学生の学びに対する姿勢や専門課程への興味の変化などを評価する資料としても活用して頂ければと考えております。今後も COVID-19 感染防止のための生活様式を考慮した授業運営が求められると考えられることから、本アンケートの実施方法も含めた授業改善(FD)が必要と考えられます。また、コロナ禍における大学教育、各学部のカリキュラムポリシーの具体化などの FD 活動のためにも教員個人だけでなく、各学科・学部でも種々のデータを詳細に検討して頂けますよう、お願いいたします。

本結果報告書でも、例年通り FD 委員会において学科別などの集計や分析を行いました。本学のカリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)の再考や具体化、学びの質保証(ディプロマポリシーの具現化)、また、「対面授業が困難な状況下」における各学部・学科の教育課程、教育や学びの方針の検討のための資料としても、本データを活用して頂けるのではないかと思います。そのためにも、教職員の皆さまには、より一層のご指導、ご協力をお願いいたします。

2021 年 8 月 31 日

相愛大学 FD 委員会

庄條 愛子

中村 圭爾

進藤 容子

稲垣 聡
井上 陽
藤永 慎一
温井 雅也
佐竹 愛子

授業評価アンケート結果の分析（基礎・共通および資格科目）

1. 評価の特徴

基礎・共通科目の特徴は、受講生に1・2回生が多いこと、授業の内容は語学からスポーツ実技まで幅広いことなどである。資格科目の特徴は、受講生に2回生以上が多いこと、留学生が少ないことなどである。

本年度の授業評価アンケートの特徴として①質問内容の変更、②対面授業、対面授業に代わる授業(オンライン型、オンデマンド型など)またはこれらを組み合わせた方法での授業の実施、③原則として Web のみでアンケートを実施した点である。そのため、本年度のとりまとめは昨年度までのアンケート結果との比較を行わず、本年度の結果のみを対象として検討した。

2. 受講者の授業に対する姿勢(問1～3)

受講者の授業に対する姿勢を問う問1～3の評価値は、いずれも全学平均と比較して大きな差は見られなかった(表2、図1～2)。

本アンケートの対象となった授業の多くは対面授業に代わる授業で実施されたものも多かったと考えられるが、問1「あなたはこの授業に積極的に参加しましたか。」に対する受講者の評価値は基礎・共通科目(3.53)、資格科目(3.56)であり、全学平均(3.63)と近似した値(図1)であった。この結果から、通常とは異なる形態で実施された授業に対しても、積極的にまじめに取り組んだことが推察される。

問2「あなたはこの授業の学修目標を理解できましたか。」に対する受講者の評価値も問1と同様に基礎・共通科目(3.36)、資格科目(3.65)であり、全学平均(3.54)と近似した値であることから(図2)、対面授業、対面授業に代わる授業に関わらず授業の目標をしっかりと理解したうえで、受講していることが分かった。

例年、評価値が最も低い問3「あなたはこの授業に関して予習・復習を含めて授業時間外も学習しましたか。」の評価値は、本年度も他の質問に比べて低い傾向であったが、留学生では若干高い値であった(表2)。

これらの結果から、受講者は授業形態に関わらず学修目標を理解したうえで、積極的に地道に学習に取り組んだこと、この傾向は留学生・留学生以外に関わらず全学と同じ傾向と考えられる。

3. 担当教員の授業に対する姿勢(問4～7)

担当教員の授業に対する姿勢を問う問4～7の評価値は、いずれも全学平均と大きな差はなかった(表2および図3)。

本年度は通常とは異なる形態で実施された授業も多かったと思われるが、本ア

アンケートの結果から担当教員は教材(テキスト、プリントなど)などを効果的に用いながら(図3)、授業時間を厳守して丁寧な授業を実施したことがうかがえる。基礎・共通教育および資格系の授業を担当された先生方の本学の教育に対する真摯な対応が、学生による意見として本アンケートに反映された、と考える。

4. 授業の内容や理解、満足度に関する(問8～12)

授業の内容や理解、満足度に関する問8～12の評価値も、すべて全学平均と大きな差はなかった(表2および図4)。

問8～12の評価値は、問4～7の担当教員の授業に対する姿勢に関する質問と非常に密接に関連していると考えられ、教員が丁寧に熱意を持って指導している授業では自ずと問8～12の評価値が高くなると推察される。これらの評価値の上昇に伴って受講者の授業に対する姿勢(問1～3)の評価値も高くなり、「丁寧でわかりやすい授業」⇒「授業が楽しい、満足」⇒「自分でも予習・復習して、しっかり学びたい」という学習(意欲)のプラスサイクルが明確に成立している。さらに、問11「この授業を受講して新しい知識・考え方・技能などが習得できましたか。」の評価値が高いことから、学修による視野の広がりを感じていることが伺える。

表 1 アンケート質問項目と内容

問 1	あなたはこの授業に積極的に参加しましたか。
問 2	あなたはこの授業の学修目標を理解できましたか
問 3	あなたはこの授業に関して予習・復習を含めて授業時間外も学習しましたか。
問 4	担当教員は授業時間を守っていましたか。
問 5	担当教員の説明はていねいでしたか。
問 6	担当教員は学生が質問や意見を述べられやすい環境を作っていましたか。
問 7	担当教員は教材(テキスト、プリントなど)などを効果的に用いていましたか。
問 8	この授業の内容は授業の学修目標に適したものでしたか。
問 9	この授業の内容は理解しやすかったですか。
問 1 0	この授業を受講してテーマとする分野への問題意識や関心が深まりましたか。
問 1 1	この授業を受講して新しい知識・考え方・技能などが習得できましたか。
問 1 2	この授業を受講して満足できましたか。

表2 基礎・共通、資格および全学平均の評価値

	基礎・共通	留学生	留学生以外	資格	全学平均
問1	3.53	3.63	3.52	3.56	3.63
問2	3.36	3.65	3.33	3.46	3.54
問3	2.93	3.31	2.88	3.09	3.14
問4	3.75	3.80	3.75	3.66	3.77
問5	3.58	3.78	3.56	3.65	3.67
問6	3.43	3.69	3.40	3.44	3.54
問7	3.55	3.65	3.53	3.52	3.64
問8	3.56	3.71	3.55	3.62	3.66
問9	3.32	3.53	3.29	3.35	3.48
問10	3.30	3.41	3.29	3.48	3.48
問11	3.43	3.53	3.42	3.50	3.57
問12	3.38	3.47	3.37	3.46	3.53
平均値	3.43	3.60	3.41	3.48	3.55

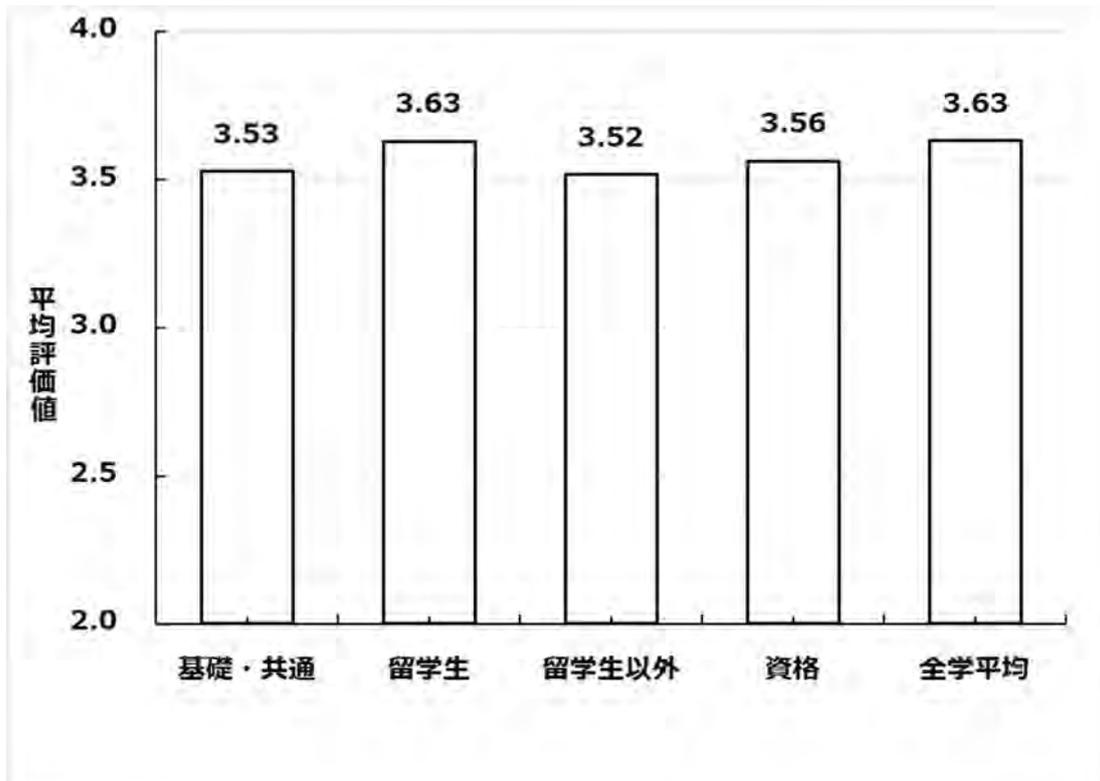


図1 基礎・共通、資格および全学平均の問1の平均評価値

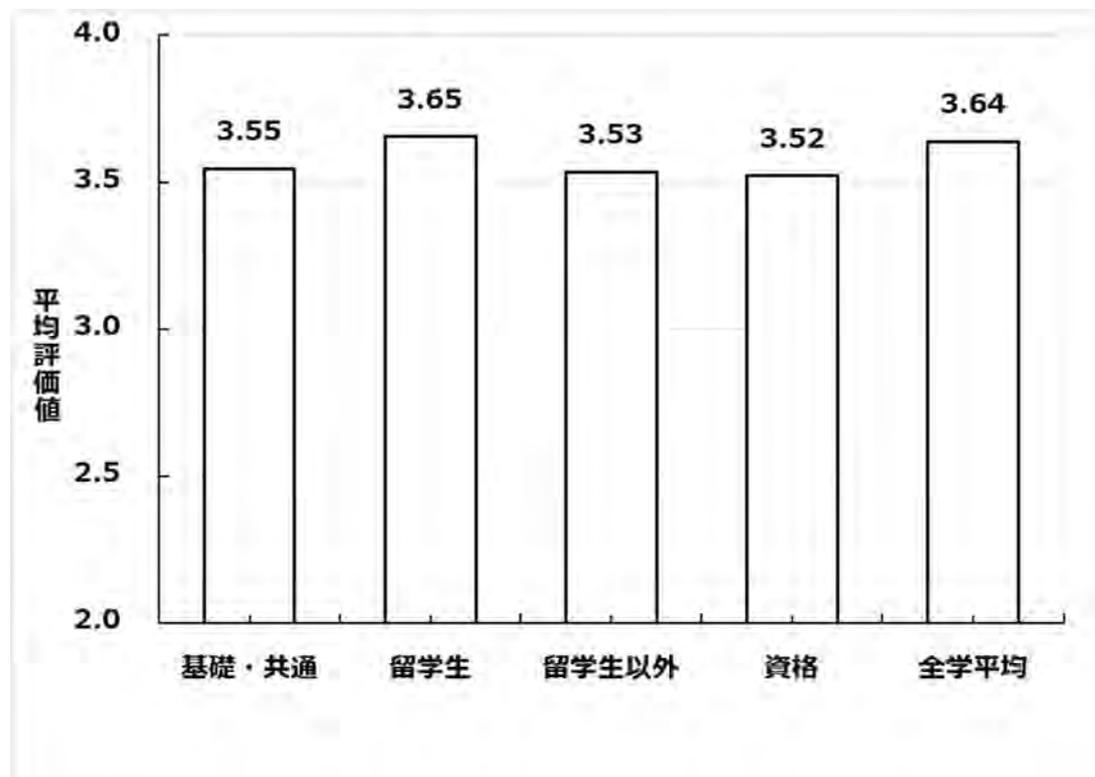


図2 基礎・共通、資格および全学平均の問2の平均評価値

授業評価アンケート結果の分析（音楽学部）

1. 概説

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、これまで人類が経験した事のない状況により、講義および実技レッスンにおいてオンラインでの授業実施を余儀なくされた。音楽学部の場合、講義系授業において演習を伴う内容の授業が多く、オンラインによるもの、オンラインと対面を交えたもの、オンラインでは成立が難しい科目などやや混乱が生じたようである。また実技レッスンにおいては、教員と学生との話し合いによってオンラインや動画を用いての実施方法を用いるなど遂行されたが、専攻楽器によってはそれらが困難な場合もみられた。なお、このような状況下のため2020年度は実技・レッスン系科目の評価アンケートは実施していない。

2. 講義系科目の評価の特徴

新型コロナ禍であるものの、前年度の結果と比較しても、ほぼ大きな変化はなく概ね高評価だったと認められる。ただ、問5「担当教員の説明はていねいでしたか」問6「担当教員は学生が質問や意見を述べられやすい環境をつくっていませんか」が、若干低くなっているが、これはオンラインなどによる例年との授業環境の違いも関係している可能性あるのではと考えられる。また、問3「あなたはこの授業に関して予習・復習を含めて授業時間内外も学習しましたか」については前年度同様に低い数値となっている。前記の通り音楽学部の講義には、実技を伴う演習が含まれる科目が多く、もちろん予習・復習は重要ではあるが、なかにはその場で課題を出され実力を試されるといった予習・復習をするという概念ではない演習科目も含まれているということも要因に考えられるだろう（表1）。

	音楽学科
問1	3.65
問2	3.61
問3	3.16
問4	3.71
問5	3.67
問6	3.52
問7	3.66
問8	3.66
問9	3.58
問10	3.64
問11	3.68
問12	3.60
平均値	3.59

表1 音楽学部グループ平均

3. 自由記述の特徴

自由記述の内容はその授業の評価の核心となることもあり、また様々な種類の科目によって教員の特長や学生が思っている期待を知ることができる。総体的に「楽しかった」「分かりやすかった」「楽しく受講できた」などのコメントが多く見受けられた。

- ・資料に対する説明がとても分かりやすかったですと思います。」(諸民族の音楽)
- ・「動画がすごく工夫されていて、分かりやすかったです。対面で受けられなかったのが残念なくらい、楽しく受講できました。」(管弦楽概説)
- ・「自分の知らない分野の楽器や楽曲について知ることが出来たので勉強になりました。」(管弦楽概説)

- ・「苦手科目ですが先生はご丁寧に教えてくださるので頑張ります。」(和声法演習)
- ・「曲ごとに演奏のポイントが分かりやすく説明されていました。」(器楽合奏)
- ・「説明の分かりやすさ、人数が多くても一人ひとりに的確なアドバイスをしてくれる。」(器楽合奏)
- ・「先生の話し方が柔らかかったので楽しんで受講することが出来た。」(器楽合奏)
- ・「毎回用意していただいた資料がとても馴染みやすいものであったと思います。」(近世歌謡)
- ・「近世歌謡の面白さや日本の音楽の歴史を沢山知ることが出来ました。」(近世歌謡)
- ・「久しぶりのお箏が楽しかった。」(近世歌謡)
- ・「特に、中谷先生の授業は、実践的でよかったです。実際にマンダラを考えて作って、普段の練習や考え方のパターンを見つめ直すきっかけになって、役立ち、ありがたかったです。」(音楽キャリアデザイン)
- ・「とても重要な授業だと思うので、全て資料では無くて、出来れば動画で説明して頂いた方が分かりやすいし、勉強に取り組みやすかったと思いました。」(西洋音楽史[古典派・ロマン派])
- ・「資料の説明がとても丁寧で、音楽の移り変わりの様子だけでなく、歴史的な背景も詳しく学べて想像しやすかったです。」(西洋音楽史[古典派・ロマン派])
- ・「オーケストラの集中練習で1回授業が抜けてしまった時授業の内容を教えて貰えたり曲を聴きながら先生の楽譜を見せてもらったりとても丁寧で楽しい授業でした。」(合唱)
- ・「普段はあまり触れることのない合唱曲についてとても理解が深まったので良かったです。」(合唱)
- ・「先生のおかげで和声法が好きになりました。もっと音楽を勉強したいなと思います！先生の事が好きです。」(和声法演習)
- ・「プリントを用いた丁寧な説明が分かりやすかったとおもいます。進度が早い生徒に対しては、別に課題を用意したり、授業外の範囲や内容でも添削してもらえてとても勉強になりました。引き続き和声について学びたいと意欲が出てくる授業でした！」(和声法演習)
- ・「とても分かりやすかったです。質問もしやすく、丁寧に答えてくださりました。」(和声法演習)
- ・「問題の修正を個人の回答に合わせて、柔軟なアドバイスをいただいた点。」(和声法演習)

- ・「先生がわかりやすく教えてくださったおかげで、新しい知識をみにつけることが出来た。また、この知識を今後活かしていきたいと感じた。」(キーボード・ハーモニー)
- ・「和音進行や転調など、基礎だけど理解できるようになりました。今後、作曲などをする時に応用していこうと思います。」(キーボード・ハーモニー)
- ・「講義で使用した映像の補足を講師が行ってくれ、理解しやすかった。」(現代日本の音楽カルチャー)
- ・「映画を観る時は大体が物語に目がいってしまうので音楽を中心に観て楽しむという習慣がありませんでした。この授業を通して、映画を観る機会も増え、視点を変えて観るようになりました。」(映像と音楽と放送)
- ・「毎回説明がわかりやすく意欲的に取り組むことができた。」(映像と音楽と放送)
- ・「初めはドイツ語もあまり分からなかったり、先生の事もあまり知らなかったもので、不安しか無かったのですが、次第に授業をしていく上で、とても楽しくて、ドイツ歌曲をもっと学びたいと思ったのでこの授業を受けて良かったです。」(ドイツ歌曲研究)
- ・「ドイツ語を沢山学べて歌ってとても楽しんで歌うことが出来ました。」(ドイツ歌曲研究)
- ・「的確なアドバイスをいつもしていただけたので分かりやすかったです。」(伴奏法)
- ・「丁寧に分かりやすく説明している。」(ピアノ音楽史)
- ・「即興演奏をする機会があった。また、様々な場面で、それぞれどう感じるかをシェアする機会があり、自己をよりよく知ることができた。また、他の人が何を感じているか、聞くことができてよかった。」(音楽療法の基礎)
- ・「用語などの説明がとても分かりやすく、質問をした時にも丁寧に対応していただきました。」(臨床心理学)
- ・「介護について、実践的なことから知識も得られました。また、ワークシート等で質問しやすい環境だったと思います。」(介護概論)
- ・「資料や説明が丁寧でとても分かりやすかったです。」(臨床医学各論)
- ・「授業のときとレポート指導のときのメリハリがあったのでやりやすかった。」(障害児教育)
- ・「先生が優しく、私は留学生を了解して、丁寧に課題を教えました。わからないところも丁寧に解釈しました。」(障害児教育)
- ・「普段あまりできないライブセッティングや音の聴こえ方などを隅々まで知ることができてよかった。」(レコーディング・エディット/録音の技術と表現)
- ・「バロック音楽について、チェンバロについて知ることができてよかったで

- す。」(演奏解釈/音楽専攻科)
- ・先生のご経験のお話や、様々な演奏を聞かせていただき、とても勉強になりました。」(演奏解釈/音楽専攻科)

オンラインでの授業についての感想、および要望の記述も若干見られた。特に演習を伴う授業においては、この方法による遂行の困難さを感じることができる。

- ・「出来れば対面で授業を受けたかったです。」(西洋音楽史[古典派・ロマン派])
- ・「難しい教科の上コロナ禍でオンラインだったので私にはついていくことができなくて自分の力不足に悔しい思いです。すみません。」(西洋音楽史[古典派・ロマン派])
- ・「内容が全体的に難しかったため実際に説明して欲しかった。」(西洋音楽史[古典派・ロマン派])
- ・「前期の授業がほぼオンラインが多くて、1年間授業を受けた実感があまり無いです。授業自体はとても楽しくて、来年も受けたい位です。もしコロナが無かったら、もっと色んな事を学べてもっと楽しかったんだろうなと思いました。」(ミュージカル演習)
- ・「前期がこの状況で無くなってしまったことは残念でしたが、とても楽しく受けられる授業でした。」(リトミック)
- ・「オンラインはできれば teams のほうが良かったです。」(ソルフェージュ)

授業についての感想や要望も、当然のことながら若干の記述があった。

この記述からすべての状況を判断することは難しいが、これらの声に対しては謙虚で寛容な受け止めが必要であるとともに、きめ細やかに改善する姿勢を持つことが授業等の品質向上につながると考える。

- ・「授業に関する情報はポータルに掲示から発信してもらいたいです。」(現代日本の音楽カルチャー)
- ・「もう少し機材を見たり触ったりしたかったです。」(音響学)
- ・「授業開始時間が、教室にある時計頼りだったので、正確では無かったことが気になった。そして、主にパワーポイントを使って授業を行っていたが、スクリーンに映らなかつたりパソコンが止まってしまうことが多々あった。しばらく改善が見られず、とてもやりにくかったので、迅速に対応すべきだと思う。また、教師への質問を毎回初めに返答していたが、自分がしていない質問の答えを聞いている時間は無駄なのではないかと個人的には思う。」(介護概論)

- ・「コロナウイルスの影響で、シラバス通りに進まなかったのだと考えるが、対面授業を行っていないが、人と対面でしなければならない課題が多く、学生同士で授業時間外に都合を合わせなければならないことが難しかった。また、メールのみでの授業において、学生によって受け取り方の違いが生じている場面などもあり、具体的に何を考えるために各課題をするのかを明確に理解して授業や課題に臨みたかったと考える。(音楽によるアウトリーチ/大学院音楽研究科)
- ・「コロナ禍の中だったので、凄くイレギュラーな内容として進めざるを得ないっていうのはありましたが、企画書やビデオを作成するにあたり、提出をする前にどういったところをちゃんと工夫するようにとか言うことの説明がもう少し欲しかった。一方的に考えなさいといった上で提出期限もかなり短い Spann だったので、もう少しゆとりが欲しかった。」(音楽によるアウトリーチ/大学院音楽研究科)
- ・「何を学ぶ時間なのか明確に理解出来ない授業が数回あり、目的を理解した上で学びたいと考える。」(演奏理論特別演習/大学院音楽研究科)

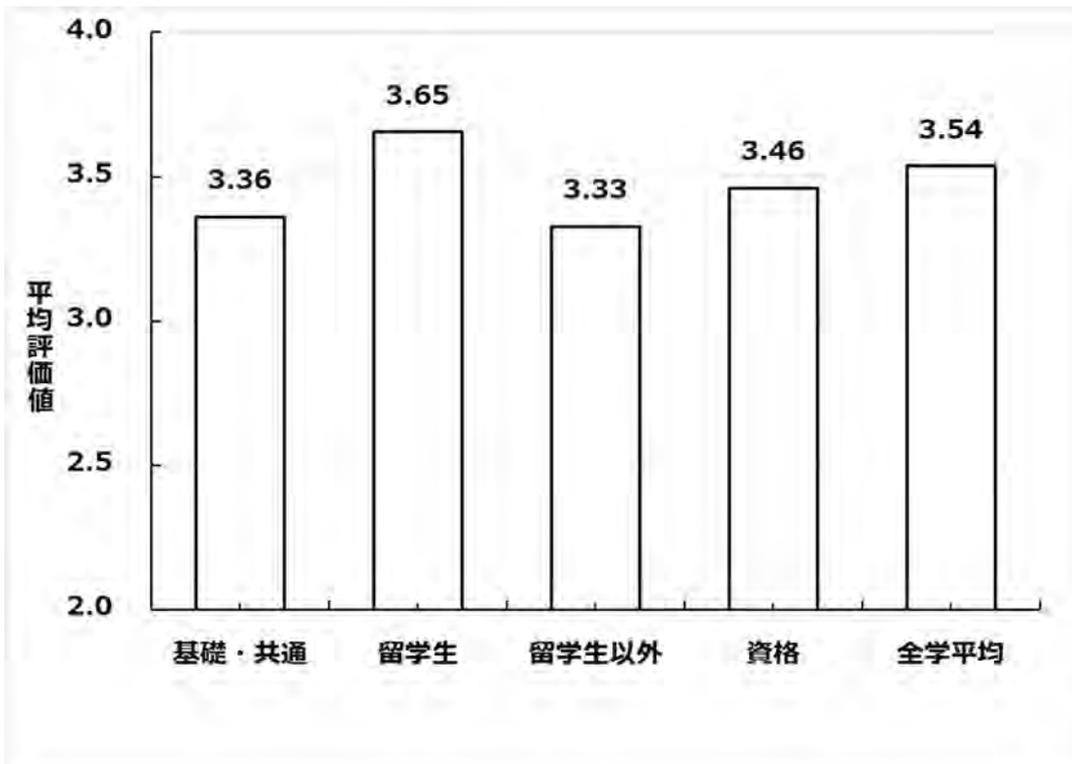


図3 基礎・共通、資格および全学平均の問7の平均評価値

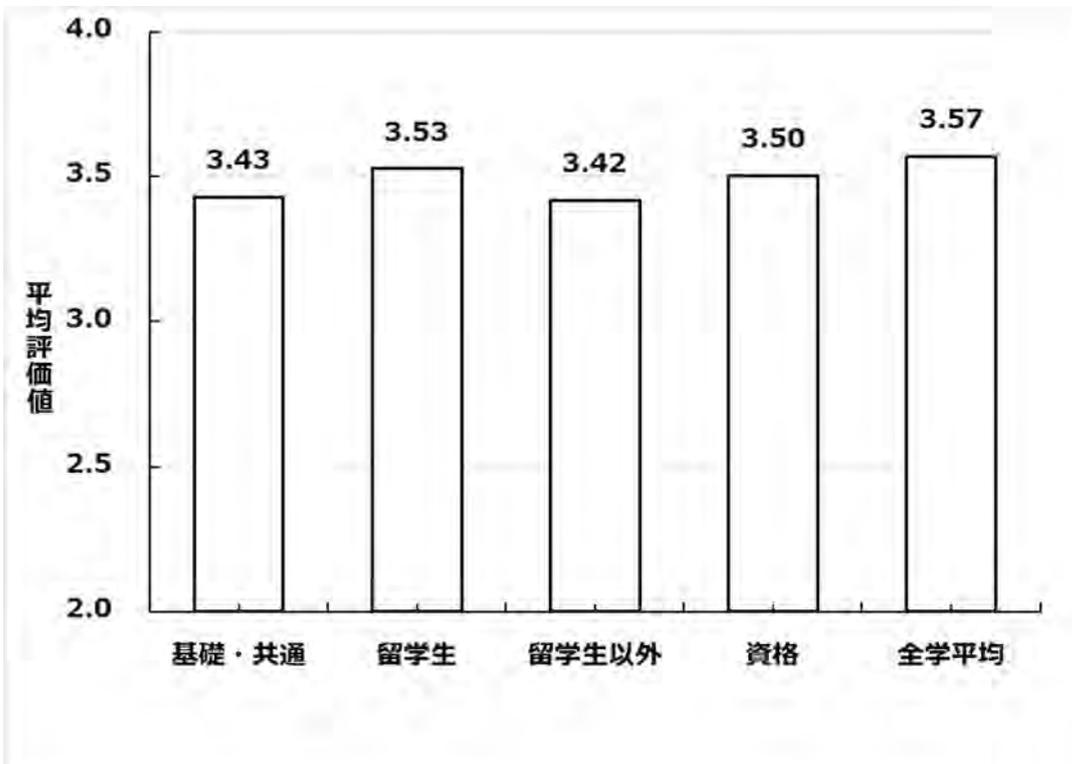


図4 基礎・共通、資格および全学平均の問12の平均評価値

授業評価アンケート結果の分析（人文学部）

1. 全体

全体の平均値（質問 1～質問 14）について、全体平均が 3.54 で前年度と比較して大きく変化している訳ではなかった。さらに、留学生、および留学生以外の別で見ていくと、留学生が 3.69 で留学生以外は 3.47 となっており、留学生以外の数値が低くなっていることが気付きである。これはここ数年見られる傾向でもあり、特に留学生に対して特化した授業形態になっているとしたら、留学生以外には不満を感じる部分あるのかもしれない。

2. 質問 1～質問 3 について

- ①質問 1 あなたはこの授業に積極的に参加しましたか。
- ②質問 2 あなたはこの授業の学習目標を理解できましたか。
- ③質問 3 あなたはこの授業に関して予習・復習を含めて授業時間外も学習しましたか。

これらの質問は授業を受けるにあたって学生の姿勢に関するもので、全ての質問項目を考える上で、大前提になるとも考えられる。もっとも、特に質問 9～質問 14 を改善していくことが、結果として質問 1～質問 3 を改善するとも考えられないこともないが、それは今後様子を見ていく必要がある。

- ①質問 1 あなたはこの授業に積極的に参加しましたか。

人文学部全体として 3.62 で、留学生が 3.75、留学生以外が 3.56 であった。この設問は前年度から変更されたもので、これまでの数値と比較することはできない。ただ、ここ数年の合格者数から考えると、留学生にとっては倍率が上がったことにより、学生のレベルが上昇したとも考えられる。一方でやはり気がかりなのは留学生以外の積極性であろう。留学生以外の学生が増えたことは喜ばしいところではあるが、もともとモチベーションがそれほど高いわけでもなく、知的好奇心に溢れているわけでもないかもしれない学生に対して、それらを上げていくためには、学生それぞれの環境因子も含めてもう少し多角的に考えていかないといけない。

- ②質問 2 あなたはこの授業の学習目標を理解できましたか。

全体として 3.51 で、留学生 3.66、留学生以外 3.45 だった。ここでも留学生以外の数値が低いことは気付きである。目標が理解できない→積極的に授業にも参加できないという負の連鎖があるようにも見てとれる。

③質問 3 あなたはこの授業に関して予習・復習を含めて授業時間外も学習しましたか。

全体として 3.05 で留学生 3.33、留学生以外 2.92 であった。この数値だけ見ていると、質問 1 と質問 2 と連動していると考えられる。特に留学生以外の学習意欲は低いと言ってよく、これは早急に何とかしなければならないだろう。負の連鎖が実際の学習時間にも影響していると考えられる。

3. 質問 4～質問 7 について

①質問 4 担当教員は授業時間を守っていましたか。

②質問 5 担当教員の説明はていねいでしたか。

③質問 6 担当教員は学生が質問や意見を述べやすい環境を作っていましたか。

④質問 7 担当教員は教材（テキスト、プリントなど）などを効果的に用いていましたか。

これらの質問は、担当教員が授業をするにあたってもっとも基本となる項目で全体として、質問 4 が 3.77、質問 5 が 3.66、質問 6 が 3.52、質問 7 が 3.64 となっており、留学生、留学生以外の別でもみても、質問 6 で留学生以外のところで 3.39 と少し低い数値を出しているものの、全体として比較的高い数値を題していることは教員が比較的努力している結果だと思われる。ただ、これで満足というわけではなく、このコロナ過において授業形態も大きく変化しつつある状況の中で、対面授業、あるいは対面授業に代わる授業においても、例えばオンラインライブ授業がどうしたら導入できるのかを含めて全体のレベルを上げていかなくてはならないだろう。

4. 質問 8～質問 12 について

①質問 8 この授業の内容は授業の学習目標に適したものでしたか。

②質問 9 この授業内容は理解しやすかったですか。

③質問 10 この授業を受講してテーマとする分野への問題意識や関心が深まりましたか。

④質問 11 この授業を受講して新しい知識・考え方・技能などが修得できましたか。

⑤質問 12 この授業を受講して満足できましたか。

これらの質問は、担当教員が実際授業を行った学生の反応を示している。全体として質問 8 が 3.65、質問 9 が 3.48、質問 11 が 3.54、質問 12 が 3.55 という値を示している。ここでも留学生、留学生以外の比較をするとやはり留学生以外の数値が低くなっていることは質問 1 から質問 3 とも関わってくることで、問題はやはり学生自身の問題というのは考えられる。一方で、それを解消するために質

問4から質問7のように担当教員のパフォーマンスについて一定の効果はあるものの、さらに向上していかなければならない。一方、このデータからは明らかにはならないが学生の生活環境が大きく起因しているようにも思われる。

5. 質問13・質問14について

①質問13 この授業で身についたと思われる力にチェックして下さい。

これについては個々の授業の特性に関わることなので、一概には述べることはできない。

②質問14 自由記述

やはり、「分かりやすい」というコメントが多いことから、この「分かりやすさ」とは何かということは分析しても良いのではないかと考える。結果、それがFD向上に繋げることができればよいのではないだろうか。

6. まとめ

今年度だけの問題ではないが、人文学部の課題としては留学生の数値に対して留学生以外の数値が低めになることには注意が必要であろう。ここは各質問でもそのことには触れたが、授業だけの問題ではなく、学生自身の生活環境、あるいはそれまで学習状況に起因するとも考えられ、FDだけでなく学生生活調査のデータとも合わせて分析する必要があると思われる。ただ、現場レベルの問題として、可能な限り単位未収得率、退学者の減少をどのように進めるのかということも同時に進めていく必要がある。

総じて人文系の学びは、本学に6つのコースを設けているように、決してそれぞれの専門分野が同一の価値観のもとに成り立っているわけではなく、多種多様な様相を呈している。かつ、人文の学びは、何かに「なる」（将来的に就く職業）ための学びではなく、人間そのもの、人生とは何かといった、哲学的・思索的な学びを行うのがその役割である。だから、人文学部の傾向といってもそれは数値上のことであり、ひとまとまりにして論ずることは無謀に等しく、実際は個々の学生への対応が求められるべきであると思われる。とりあえず授業については大きな課題を見出せるわけではなく、授業以外での学生個々への対応が、学生の出席率の上昇、そして単位未修得率・退学率の減少へとつながっていくと思われる。

授業評価アンケート結果の分析（人間発達学部）

1. 評価の特徴

人間発達学部は子ども発達学科、発達栄養学科のいずれも資格取得に重点をおいた授業カリキュラムを編成している。そのために、例年、授業評価アンケートの対象となる授業には資格取得に関連したものが多く含まれている。

本年度の授業評価アンケートの特徴として①アンケートの質問内容の変更、②対面授業、対面授業に代わる授業(オンライン型、オンデマンド型など)またはこれらを組み合わせた方法での授業の実施、③原則としてWeb(Microsoft Forms)のみでアンケートを実施した点である。

2. 受講者の授業に対する姿勢(問1～3)

人間発達学部の両学科の資格取得には、一定の出席数が文部科学省および厚生労働省によって規定されている。また、実験・実習やグループワークなどは同じ班の学生に迷惑をかけられないという学生の責任感も反映して問1「あなたはこの授業に積極的に参加しましたか」は、例年、全学に比べて高い値を示している。しかし、本年度は授業形態が対面授業だけではなかったためか、全学の評価値と大きな差はなかった。問2「あなたはこの授業の学修目標を理解できましたか」の評価値は、全学および人間発達学部で差はなかった。この結果から、本学の学生は全体として授業の形態が対面授業、対面授業に代わる授業(オンライン型、オンデマンド型など)のいずれであっても、学習目標をしっかりと理解し、まじめに積極的に授業に取り組んだと考えることができる。

問3「予習・復習、時間外学習」の評価値は他の質問に比べて2014年度から継続的に低く、本年度も全学および子ども発達学科で他の質問よりも低く、発達栄養学科でわずかに高かった。「予習・復習、時間外学習」の評価値を高めるため「教室では講義は行わず宿題とされていた課題を個々の生徒に合わせて指導する『反転授業』」、「自分で学ばなければ学修できない『問題解決型学習法(PBL: Problem Based Learning)』」等の授業方法の工夫が出来ないかと考え、FD研修会でも授業評価アンケートの評価が高い先生方に授業の工夫などをご紹介頂いている。本年度、発達栄養学科の評価値が高い理由は、対面授業、対面授業に代わる授業および両者を組み合わせて実施した授業が多く、それぞれの授業で復習を兼ねたレポートや小テストが課されることも多かったためと思われる。レポートや小テストを通して学生自身が「時間外もよく学習した」と感じ、評価値として反映されたと考えられる(表2および図1)。

3. 担当教員の授業に対する姿勢(問4～7)

問4～7は、担当教員の授業に対する姿勢を問うものである。本年度は新型コロナウイルス感染防止のために対面授業の実施が難しく、多くの先生方が授業の運営方法に迷うことが多かったと思われる。このような状況下で授業の運営や資料の作成などを工夫して、授業を実施されたのではないかと推察する。

問4～7の質問に対する評価値は、全学、子ども発達学科および発達栄養学科で大きな差はなかった。この結果から、本学の先生方は対面授業、対面授業に代わる授業および両者の組み合わせ授業などの授業方法に関わらず、授業時間を厳守し、適切な教材を作成して分かりやすい授業を運営されたことが伺える(表2および図2)。

4. 授業の内容や理解、満足度に関する質問(問8～12)

授業の実施状況や理解に関する問8～12までの項目は、全学、子ども発達学科および発達栄養学科で大きな差はなかった(表2および図3)。問8「この授業の内容は授業の学修目標に適したものでしたか」は、問2「学習目標の理解」と密接に関係しており、学生は授業の実施方法に関わらず学習目標を理解したうえで取組んだと考えられる。また、学習目標を十分に理解し、何を学ぶかを理解できていれば問9「理解しやすさ」、問10「テーマとする分野への問題意識や関心が深まり」、問11「新しい知識・考え方・技能などの習得」および問12「受講に対する満足」の評価値も自ずと高くなると考えられる。

人間発達学部の授業評価アンケート対象授業は資格取得に関連していることから、学生は授業の受講に際して自らの目標のためには「何を学んで、どのような力をつけなければいけないか」を十分理解し、学習に取り組んでいると推察できる。

5. 自由記述の特徴

自由記述欄は本年度も「楽しかった」「面白かった」という意見が、多かった。本年度は授業形態が多様なことから、「リモートが多かったけど分かりやすかったので満足です」「オンデマンド方式で自力で勉強しやすく、また対面時に丁寧に解説してくださりわかりやすかったです！ありがとうございました」などの自由記述も多かった。

対面授業に代わる授業(オンライン型、オンデマンド型など)に対して肯定的な意見が多く、新型コロナウイルス感染防止のために制限の多い大学生活でも学生の前向きな姿勢を伺うことができた。

6. 身についた力の特徴(問13)

問13の身についた力は、本年度も全学および発達栄養学科に比べて子ども発

達学科の学生自己評価が高い項目が多かった(図4)。特に「主体的に取り組む力」の評価値は著しく高く、子ども発達学科の学生の卒後進路に必要な力であり、ディプロマポリシーに挙げられている「思考力・判断力・表現力」が授業を通して十分に涵養されている結果である、と考えることができる。

表 1 アンケート質問項目と内容

問 1	あなたはこの授業に積極的に参加しましたか。
問 2	あなたはこの授業の学修目標を理解できましたか
問 3	あなたはこの授業に関して予習・復習を含めて授業時間外も学習しましたか。
問 4	担当教員は授業時間を守っていましたか。
問 5	担当教員の説明はていねいでしたか。
問 6	担当教員は学生が質問や意見を述べられやすい環境を作っていましたか。
問 7	担当教員は教材(テキスト、プリントなど)などを効果的に用いていましたか。
問 8	この授業の内容は授業の学修目標に適したものでしたか。
問 9	この授業の内容は理解しやすかったですか。
問 1 0	この授業を受講してテーマとする分野への問題意識や関心が深まりましたか。
問 1 1	この授業を受講して新しい知識・考え方・技能などが習得できましたか。
問 1 2	この授業を受講して満足できましたか。

表2 人間発達学部および全学平均の評価値

	全学	子ども発達学科	発達栄養学科
問1	3.63	3.59	3.63
問2	3.54	3.48	3.51
問3	3.14	3.04	3.33
問4	3.77	3.65	3.77
問5	3.67	3.53	3.58
問6	3.54	3.33	3.48
問7	3.64	3.52	3.61
問8	3.66	3.56	3.64
問9	3.48	3.41	3.42
問10	3.48	3.50	3.45
問11	3.57	3.57	3.49
問12	3.53	3.47	3.47
平均値	3.55	3.47	3.53

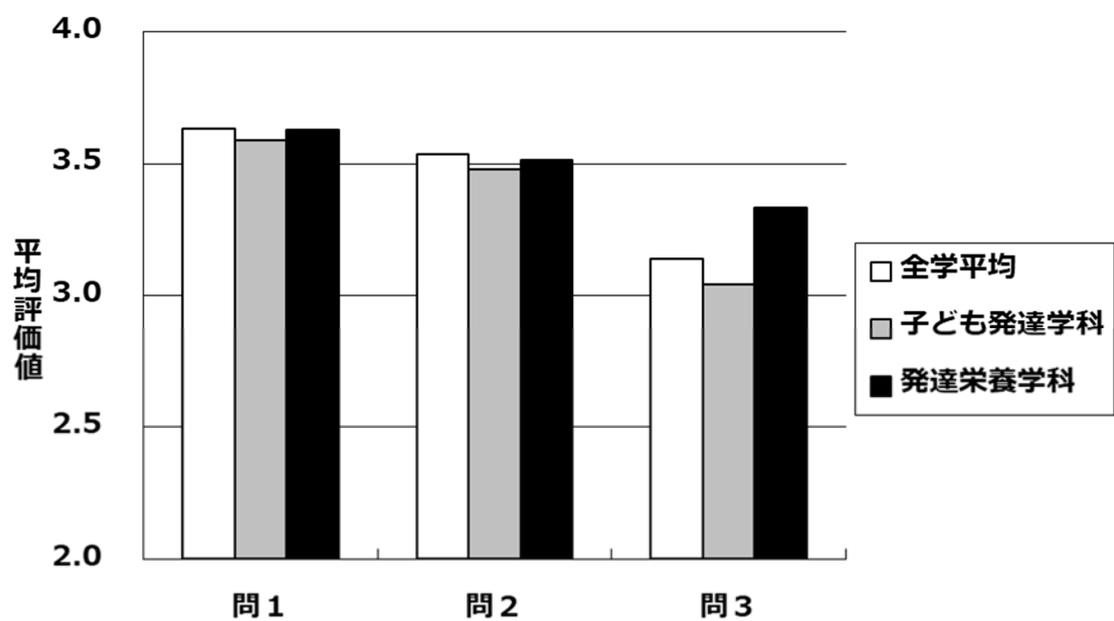


図1 全学および人間発達学部の間1～3の平均評価値

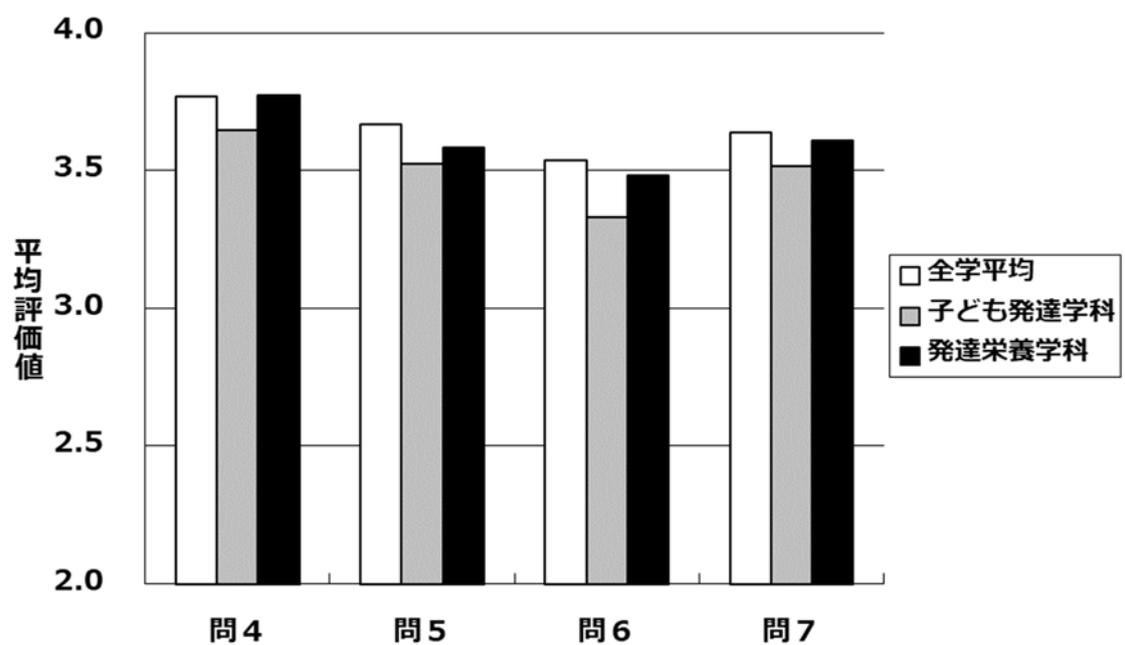


図2 全学および人間発達学部の間4～7の平均評価値

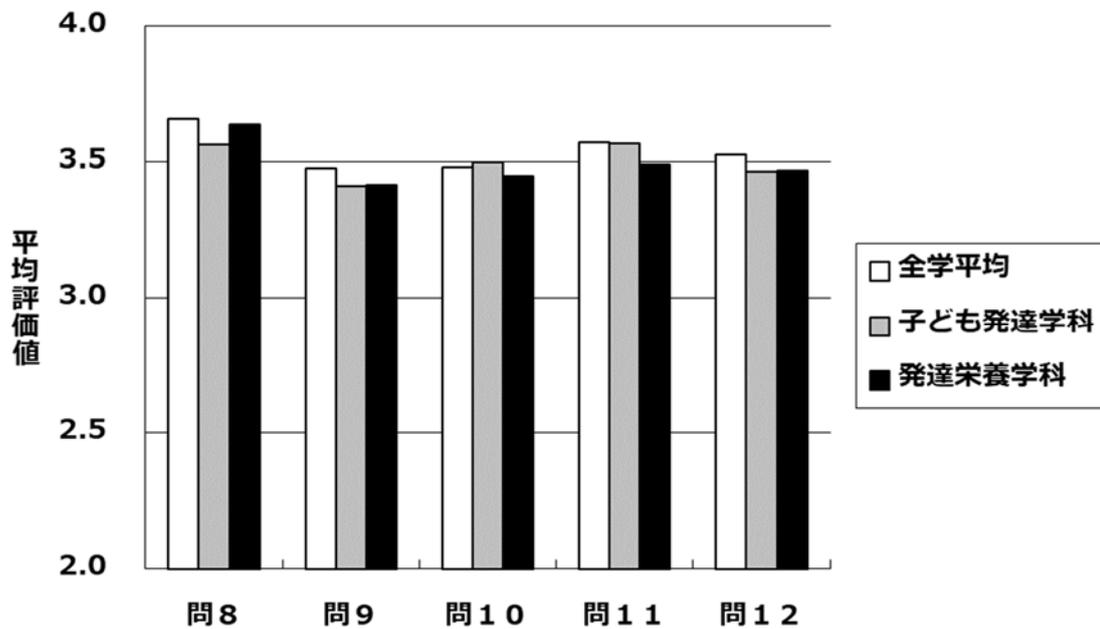


図3 全学および人間発達学部の間8～12の平均評価値

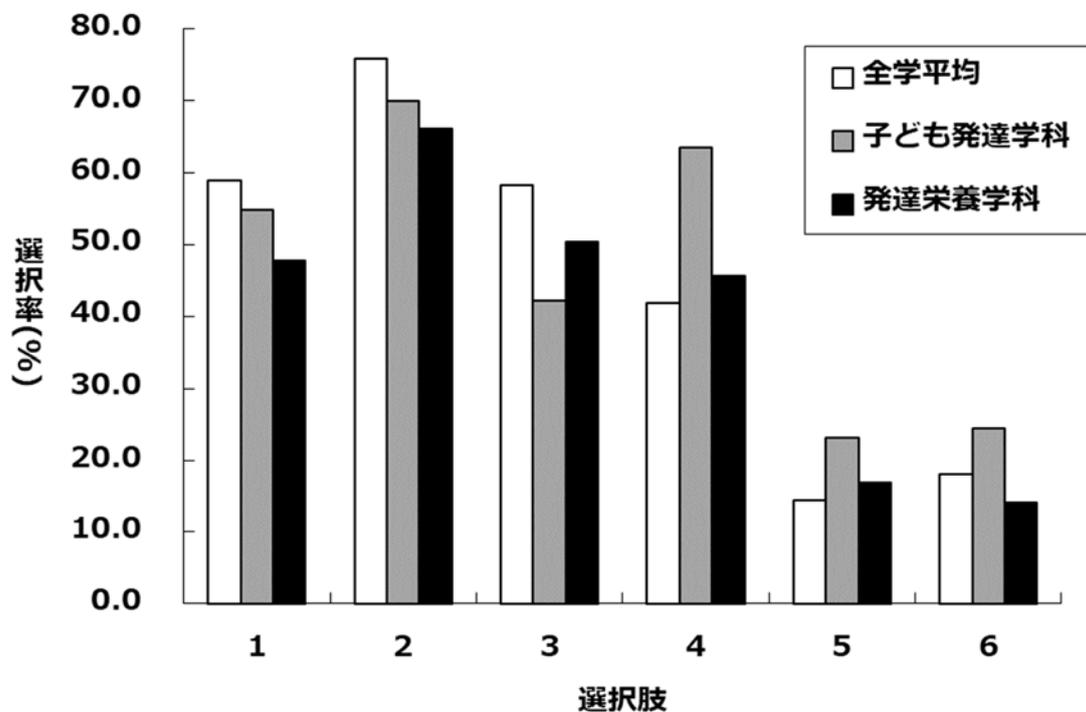


図4 人間発達学部の間15の選択率

※選択肢 1：問題・課題を見つける力、2：考える力、3：調べる力
 4：主体的に取り組む力、5：プレゼンテーション力、6：コミュニケーション力

授業評価アンケート調査結果 グループ平均一覧

	基礎・共通	基礎・共通留学生	基礎・共通留学生以外	資格	留学生	音楽学科	音楽マネジメント学科	人文学科	人文学科留学生	人文学科留学生以外	子ども発達学科	発達栄養学科
問1	3.53	3.63	3.52	3.56	3.93	3.65	0.00	3.62	3.75	3.56	3.59	3.63
問2	3.36	3.65	3.33	3.46	3.87	3.61	0.00	3.51	3.66	3.45	3.48	3.51
問3	2.93	3.31	2.88	3.09	3.53	3.16	0.00	3.05	3.33	2.92	3.04	3.33
問4	3.75	3.80	3.75	3.66	4.00	3.71	0.00	3.77	3.86	3.73	3.65	3.77
問5	3.58	3.78	3.56	3.65	3.93	3.67	0.00	3.66	3.80	3.60	3.53	3.58
問6	3.43	3.69	3.40	3.44	3.93	3.52	0.00	3.52	3.79	3.39	3.33	3.48
問7	3.55	3.65	3.53	3.52	4.00	3.66	0.00	3.64	3.73	3.60	3.52	3.61
問8	3.56	3.71	3.55	3.62	3.93	3.66	0.00	3.65	3.73	3.61	3.56	3.64
問9	3.32	3.53	3.29	3.35	3.87	3.58	0.00	3.48	3.59	3.43	3.41	3.42
問10	3.30	3.41	3.29	3.48	3.80	3.64	0.00	3.45	3.63	3.38	3.50	3.45
問11	3.43	3.53	3.42	3.50	3.93	3.68	0.00	3.54	3.70	3.47	3.57	3.49
問12	3.38	3.47	3.37	3.46	3.87	3.60	0.00	3.55	3.68	3.49	3.47	3.47
平均値	3.43	3.60	3.41	3.48	3.88	3.59	0.00	3.54	3.69	3.47	3.47	3.53